

2019年(平成31年)度～2022年(令和4年)度 学校教育総合プランに沿った重点とする取組と評価

【逗子市立小坪小学校】

教育環境の充実

4年間を見据えた取組内容 学校としての取り組みだけでなく、学校と保護者・地域とが密に連携し、学校  
 における児童の安全・安心を確保するための取り組みを行う。

		2019年(平成31年)度	2020年( 年)度	2021年( 年)度	2022年( 年)度
期 首 入 力	学校の 実態と課 題	・学校の施設は老朽化しており、設備的にも不十分な状況である。また、新しいものを購入する予算も少ない。しかし、児童の安全・安心に直結するものに関しては、保護者・地域の方のお力をお借りしてメンテナンスを行うなど、取り組みの工夫が必要である。			
	年度目 標	・PTA主催の草刈り・校舎のメンテナンスだけでなく、学校からの発信として保護者・地域の方にもご協力を願ひ、少しずつでも教育環境整備を進めていく。			
	取組計 画	・学校敷地内の詳細な安全点検を実施。 →危険、または不便な箇所の洗い出し。 →長期休業期間などに、保護者・地域の方にご協力をお願いして、修繕等を行う。			
期 末 入 力	実践した 内容	学校敷地内に関しては、毎月の安全点検でしっかりと確認をするとともに、学区内の安全対策についても、保護者・地域と有効な情報交換をすることができた。また、PTA事業として、保護者・地域の協力の下、年2回の草刈りや校舎施設・設備の整備を行った。			
	達成度 評価	A			
	評価の 根拠	教育環境が十分に整備されたというわけではないが、学校だけでなく、保護者・地域の協力も得て、定期的に取り組むことができているのは評価に値することであると考え。			
	学校の 実態を踏 まえた課 題	通学路・学区の安全・安心についてはまだまだ大きな課題があると思われるが、学校内については、不審者等への安全対策として数年来の課題となっているインターホンの来年度中の設置を目指し、保護者・地域の協力を得て、話を進めていきたい。			

2019年(平成31年)度～2022年(令和4年)度 学校教育総合プランに沿った重点とする取組と評価

【 逗子市立小坪小学校 】

<b>柱 I</b>	<b>学習指導の充実</b>	<b>4年間を見据えた取組内容</b>	校内研究会での授業公開・研究協議等を通して、教員一人ひとりの授業力向上を図る。	
------------	----------------	---------------------	---	--

2019年(平成31年)度	2020年( 年)度	2021年( 年)度	2022年( 年)度
---------------	------------	------------	------------

期首入力	学校の実態と課題	・日々多忙な中であるが、校内研究会に対して意欲的に取り組んでいる。教員個々の授業力という点ではまだ十分ではないので、より一層の意欲を持って授業力向上のための取り組みに臨んでいきたい。 <small>子どもたちの学力が十分についているというわけではないので、教員一人ひとりがさらなる授業力向上に向けて、前向きな気持ちで取り組んでいけるように、校内研究体制の工夫改善を行いたい。</small>	0	0
	年度目標	・今年度は、特別の教科道徳と、低学年の生活科について、重点的に授業づくりに取り組む。また、それらの教科を中心としたカリキュラムマネジメントに取り組む。		
	取組計画	・校内研究会で取り組んだ授業づくりの力を他の教科の授業づくりにも生かしていくことで、子どもたちの学力向上につなげる。		

実践した内容	校内研究の取り組みとして、全学年・全学級での「特別の教科道徳」の授業研究、1・2年生での「生活科」の授業研究・カリキュラム作成に力を入れて取り組んだ。全教員が意欲的に校内研究に取り組むことができた。		
--------	---	--	--

期末入力	達成度評価	<b>A</b>		
	評価の根拠	各教員が授業づくりに力を注ぐことで、校内研究での授業・教科だけでなく、普段の他の教科の授業にも生かすことができた。その成果として、子どもたちが主体的に学習に取り組むことができていた。		

学校の実態を踏まえた課題	子どもたちの学力が十分についているというわけではないので、教員一人ひとりがさらなる授業力向上に向けて、前向きな気持ちで取り組んでいけるように、校内研究体制の工夫改善を行いたい。		
--------------	--	--	--

2019年(平成31年)度～2022年(令和4年)度 学校教育総合プランに沿った重点とする取組と評価

【逗子市立小坪小学校】

<b>柱Ⅱ</b>	<b>支援の充実</b>	<b>4年間を見据えた取組内容</b>	全ての子どもたちが安心して楽しく学校生活を送れるよう、学級担任と支援チームとが密に情報交換を行い、個に応じた適切な支援を行っていく。	
-----------	--------------	---------------------	--	--

2019年(平成31年)度	2020年( 年)度	2021年( 年)度	2022年( 年)度
---------------	------------	------------	------------

期 首 入 力	学校の 実態と課 題	・小坪小では全児童が支援の対象であるという認識の下、可能な限りの個に応じた支援を実施してきた。しかし、現段階では不登校・不登校気味の児童がおり、日常生活においても支援が必要な児童も多数いる。	不登校児童や、まだ学校生活に不安を抱えている児童は複数存在している。全児童が安心して楽しい学校生活を送れる小坪小学校となるよう、さらに支援体制の充実を図っていききたい。	0	0
	↓	↓	↓	↓	↓
	年度目 標	・児童一人ひとりの実態をしっかりと把握するために、日々の声かけや行動観察、教職員間の情報共有をしっかりと行うとともに、学級担任による教育相談等も実施し、個に応じた適切な支援を実現する。			
取 組 計 画	↓	↓	↓	↓	↓
	取組計 画	・一人ひとりの児童に関する気付きや指導経過等をしっかりと記録に残し、適切な支援につなげる。 ・必要に応じた相談だけでなく、全児童を対象にした定期的な教育相談を、各学級担任が時間等を工夫するなどして実施する。			

期 末 入 力	実践した 内容	教育相談コーディネーター3名と管理職が中心となり、校内支援体制の充実を図り、一人ひとりに応じた支援に取り組むことができた。			
	↓	↓	↓	↓	↓

	達成度 評価	<b>A</b>			
--	-----------	----------	--	--	--

期 末 入 力	評価の 根拠	教育相談コーディネーター3名がそれぞれの担当を意識して意欲的に取り組んだことで、全児童に目を向けて支援の取り組みを考えることができた。また、ケースに応じて、SC/巡回チームや関係諸機関等も活用して、よりよい対応をとることができた。			
	↓	↓	↓	↓	↓

期 末 入 力	学校の 実態を踏 まえた課 題	不登校児童や、まだ学校生活に不安を抱えている児童は複数存在している。全児童が安心して楽しい学校生活を送れる小坪小学校となるよう、さらに支援体制の充実を図っていききたい。			
	↓	↓	↓	↓	↓

2019年(平成31年)度～2022年(令和4年)度 学校教育総合プランに沿った重点とする取組と評価

【逗子市立小坪小学校】

<b>柱Ⅲ</b>	<b>学校組織の充実</b>	4年間を見据えた取組内容	校内研究会の取り組みだけでなく、可能な限り学校外の研究・研修にも意欲的に参加するようにし、教職員の専門的資質の向上を図る。	
-----------	----------------	--------------	---	--

		2019年(平成31年)度	2020年( 年)度	2021年( 年)度	2022年( 年)度
期首入力	学校の 実態と課題	・日々の仕事が忙しく、なかなか校外の研究会・研修会に自主的に参加する余裕がない現状であるが、自身の課題・学校としての課題に引き合わせるよう、夏季休業期間など、意欲的に参加できるような体制をつくりたい。	今年度は、教職員一人ひとりが「働き方改革」という視点をもってそれぞれの業務について考えることはできたので、次年度は、具体的に学校教育活動全般について、教育の質は維持した上での具体的な改善策を検討し実行していきたい。	0	0
	↓	↓	↓	↓	↓
	年度目標	・校内だけでなく、校外の研究会・研修会にも積極的に参加できる体制・雰囲気づくりを目指す。			
期末入力	取組計画	・自己観察書の目標設定時に、今年度の各自の課題・分掌上の課題・学校としての課題等をしっかりと認識し、そのことを踏まえて、校外の研究会・研修会等に自主的に参加していくようにする。			
	↓	↓	↓	↓	↓
	実践した内容	4部会が、それぞれの担当する業務に責任をもって取り組み、実践することができた。			
期末入力	達成度評価	<b>B</b>			
	↓	↓	↓	↓	↓
	評価の根拠	4部会とも、それぞれの業務は責任をもって取り組んで成果を出すことができてはいたが、各個人の自主的な研究会・研修会の参加に関しては、学校として参加しやすい体制・雰囲気づくりという点で、達成できていなかったと思われる。			
期末入力	↓	↓	↓	↓	↓
	学校の実態を踏まえた課題	今年度は、教職員一人ひとりが「働き方改革」という視点をもってそれぞれの業務について考えることはできたので、次年度は、具体的に学校教育活動全般について、教育の質は維持した上での具体的な改善策を検討し実行していきたい。			